

令和5年度 江戸川区立南葛西第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	・よく考える子 ・思いやりのある子 ・ねばり強い子 ・じょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「学力保障」で信頼される学校創り ・「文武両道」質の高い「知・徳・体」の実現 ・「学力保障」の責任を果たし、結果を出す
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 全国学力調査質問紙から学習意欲に対する質問において、おおむね7割から8割の意欲的である回答が多かった。 <課題> 本校の学力向上の目標は「東京都の平均に達する」である。ここ数年、都の平均下付近の傾向である。B層の割合は比較的高いが、D層からC層にかける割合が高いことがわかった。		

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進 ・補充学習の改善・充実 ・家庭学習の推進	① 校内研究会の実施 ・国語科を通して「読む力」を高める研修会を開催する。 ② サマースクールの実施 ・学力調査に対応した示範授業を講師招聘で実施する。 ③ 「標準学力調査」の実施 ・4月に実施し、その数値結果をもとに補充学習を効果的に進められるように改善する。 ④ 3回の家庭学習キャンペーンに、ICTを導入・活用する。	① 年間計7回の実施 ・校内研究会4回、示範授業3回行う。 ② サマースクールの実施 ・夏季休業中に10日の補充教室を実施する。 ・後期から「南二道場」を組織だった在り方に変更する。 ・12月末までに標準学力調査の再テストを行い、10P以上上げる。	A	A	①校内研究会では、意図的・計画的異に実施したこともあり、教員の授業力向上の一助となった。さらに、外部講師による示範授業・講演会を1月に実施し、学力調査に対応した授業改善を意識することができた。 ②ねらいをもって朝学習、担任による放課後補習、民間の放課後補習教室の取組を習慣化することができた。学力向上プロジェクトによる5年の診断テストでは約20%の伸び率が見られた。 ③江戸川っ子studyweek等、めあてをもったタブレットの活用を意識するよう取組ませ、学習習慣の定着につながった。	A	①校内研究会は計画に沿って行われ、師範授業・講演会も実施できたことで学力調査からの授業改善が見られた。 ②朝学習・放課後補習が実り、定量的な学力向上の効果が得られている。 ③家庭学習におけるICT活用のタブレット学習習慣の定着が認められる。	①学力の向上に向けて、研修を通して教員の授業改善が推進できた。今後は研修から得た技量を日々の実践に生かしていく。 ②定期的な実施した取組を通し、児童の学習に対する意欲を高めていく。さらなる学習習慣の定着化を図る。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書に親しむ全校読書旬間の実施 ②読書科の授業による探究的な学習の充実や図書館活用の推進 ③毎週金曜日30分間の読書タイムの実施 ④図書ボランティア(保護者)による図書室整備や読み聞かせの実施 ⑤公共図書館司書との連携による図書室整備	①読書旬間の年3回(学期1回)実施 ②各学年、各学期1回のHPにおける実践報告 ③読書タイムの年35回以上実施 ④図書ボランティア活動及びタブレット活用による読み聞かせを月1回程度実施 ⑤公共図書館司書による図書室整備を週1回実施	A	A	①読書カードの活用、めあて達成の集約等、実施把握を行い、読書量の増加や読書習慣を身に付けさせることができた。 ②HP掲載については、読書科の良さを伝える内容として課題が残った。 ④貸出管理等、バーコード化が進み、利用しやすいになった。図書室の環境整備も随時行うことができた。	A	①読書の実態把握から実質的な向上を図られている。 ②HP掲載については内容課題が見つかった。 ④貸出管理などがバーコード化を行って利用促進の環境整備もできている。	①③学校図書館のバーコード化が進み、本の貸し借りがスムーズに行うことができるようになった。読書旬間における各学年の目標もそれぞれ達成し、今後も読書に親しむ習慣作りを行っていく。 ②HPで様子を伝えるだけでなく、読書科を通して得た成果を次の学習に繋げていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲に向けた取組の実施・充実	①毎週金曜日30分間の運動遊びタイムの設定 ②異学年交流の中でのスポーツテストの実施 ③体育の授業および行間体育の充実	①運動遊びタイムの実施及び体育委員会による効果的運動遊びの実施を年35回以上開催 ②スポーツテスト実施前のポイントの理解及び練習、区・都平均越え ③なわとび・マラソン等の業間体育での取組及び長縄大会や南二ランビクの開催	A	A	①意図的・計画的に体力の向上を進めることができ、昨年度より項目(学年・男女・種目)に分けて96項目ある)は上がった。しかし、良かった項目と悪かった項目の差がある。 ③冬場の体力向上は、計画的に行うことができた。児童も寒さに負けず、冬の体力向上の意識として取り組むことができた。	A	①②計画の妥当性が得られ、体力向上が多く見られた。今後はばらつきのある分析改善も検討。 ③冬場については計画通り行われ、体力向上が十分に見られる。	①②③計画は滞りなく、すべて実施できた。ただし、体力テストの結果には、大幅な変化は見られなかった。年度末に向けてこれまで計画したことを最後まで実践するが、新年度に向けては、体力テストに向けた組織的な取組をさらに発展させていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①校内委員会開催による巡回指導教室「ゆりのき」との連携 ②校内いじめ・不登校会議の開催 ③特別支援コーディネーターを中心とした副籍交流の実施 ④体育の授業における障害者理解教育の推進	①校内委員会の開催及び巡回指導との指導方針の共有を年5回以上開催 ②いじめ不登校会議の実施を月1回開催 ③特別支援コーディネーターを核とした副籍交流の計画及び実施 ④パラアスリートとの交流及び体験(ポッチャ)の実施	A	B	①校内委員会を定期的に開催し、巡回指導員との情報交換が随時行なうことができた。 ②いじめ不登校については、未然防止、早期発見、早期解決に努めている。 ③副籍交流は、都立臨海青海特別支援学校と直接交流を行っている。学期1回程度の実施となった。	A	①定期的な校内委員会の開催、巡回指導員との情報交換が随時されている。 ②いじめ不登校対策の意識的な対応は見られる。 ③副籍交流も行われた。等、活動は行われているが定量的な目標設定が難しい事から評価も難しい。	共生社会の実現に向けた教育の推進は、多角面に広がっている。ここに掲げた項目は、どれも学級経営に深く関わるものだが、これまで学級の状態はともよく過ごしている。学年が変わる新年度においても、課題を早期に見つけ、早期解決を図る。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・Hyper-QUの活用	①Hyper-QUの実施及び教員研修会の実施、個票を基にした面談等の実施 ②「よいこのきまじ」を意識した生活指導 ③スクールカウンセラー(SC)による5年生児童全員面談 ④職員夕会における教職員の児童理解の促進	①Hyper-QUの1学期に実施し、結果が学校到着後に検討会を実施し、個票を基にした保護者への返却 ②「よいこのきまじ」について、生活指導週目標を設定し、実施 ③1学期中に5年生全員にSC面談 ④職員夕会の開催及び児童支援内容の情報共有を週1回開催	A	A	①Hyper-QU(よりよい学校生活を築くためのアンケート)研修を行い、教員同士の情報交換、共通理解を行った。「よいこのきまじ」守り、どの学級も落ち着いた生活ができている。 ③週1回程度、保護者や児童によるSCとの相談ができている。 ④職員夕会を通し、教員全員で問題意識をもって取り組んでいる。	A	①hyper-QU研修により教員同士の情報共有が進み結果、「よいこのきまじ」の各学級への反映が見られる。 ②保護者や児童とのSC相談機会が定期的な実施されている。 ④教員全員の問題意識の整合と取組が見られる。	Hyper-QUから学級の満足度は分かった。年1回の調査なのでその後の変化を調査で知ることはできないが、どの学級も落ち着いた学級経営ができていた。すべての課題に共通することが、学級が孤立することなく、課題を学校全体の課題としてとらえ解決を図っていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等	①各学年の日頃の様子をHPに掲載 ②給食メニューにおける図書活用「お話給食」の実施	①各学年月3回以上、HPに学年の様子を掲載 ②年3回お話し給食の実施及びHPにおける実践報告	A	A	①大きな行事や特別な体験活動をHPに掲載することはできたが、日々の学校の様子をもっと掲載できるといふと考える。 ②給食室の改修工事も終わり、12月より給食が再開された。それに伴い、「お話し給食」や「ご当地給食」、給食(便)等を活用し、食育をすすめることができた。	A	①HP更新掲載は必要十分。これ以上は職員の負担を考慮して行ってください。 ②今年度は、給食室の改修工事があったことで十分な機会を得られていないと思っておりますので来年度に期待します。	ICTの活用は、若手からベテランまでどの世代でも活用できるよう推進してきた。若手がフォローすることも多くなるだろうが、今後も学校の情報を定期的に提供できるシステムを構築していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校評議員会の開催 ②学校評価の実施・公表	①学校評議員会を年3回開催 ②中間、最終における学校関係者評価のHP公表	A	B	①2学期に1回の評議員会の開催が2学期までは順調にできたが、3学期は不況、紙面でのやり取りとなり反響である。1回目や2回目では、学校の様子や方針を伝えることができた。	B	①2学期の自己評価と同じです。	コロナ禍が明け、地域との交流も活発になってきた。地域を代表する方との会合は、今後も貴重な時間となる。地域・保護者・学校が連携し、学力はもろろんのこと健康で心豊かな子供の育成に励む。
特色ある教育の展開	地域の教育資源を生かした教育活動や異学年交流	①地域の特色を生かした体験活動 ②異学年交流(なかよしタイム)の開催	①葛西臨海公園への全校遠足(全学年)、生活町探検(1・2年生)、動物触れ合い体験(1年生)、なぎさボートランドの乗馬体験(2年生)、海苔鑑賞体験(3年生)、さなみふの会と田植え・福刈り体験(5年生)の実施 ②異学年交流(なかよしタイム)は、準備を含め年7回の実施	A	A	①②年間を通し、全校遠足を除き、計画した内容をほぼ実施することができた。体験活動を通し、児童に充実感・達成感を味わわせることができた。また、異学年交流においては、上の学年の意欲を高める場となり、良い伝統が引き継がれている。	A	①②コロナ禍の行動制限が解除されて、ほぼ4年ぶりに一気に沢山のイベントを設けられ実施できたことに評価します。ご苦労様でした。児童にとってはとても有意義だったと思います。	各学年における特色ある教育活動が今年度も一部を除き実施することができた。教室では味わえない充実感を味わうことができたことと考える。例年通りといった言葉で終わることなく、充実した内容となるよう改善を図る。